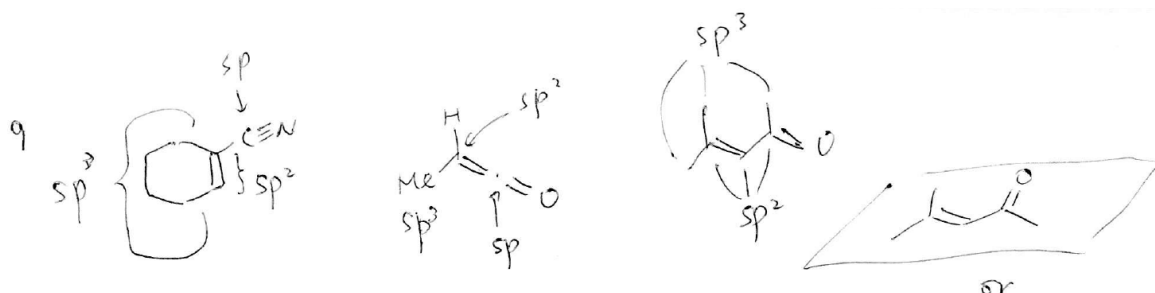
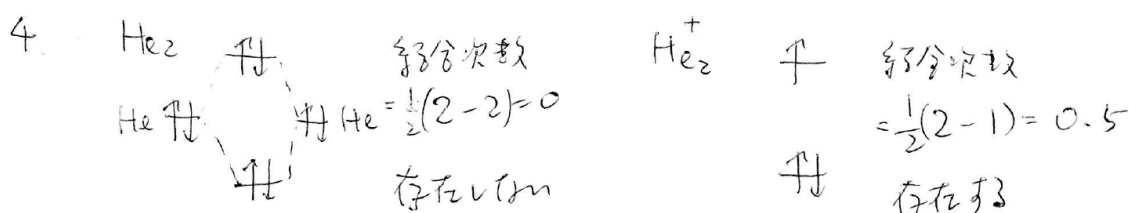


4章 3. sとpの間には 5 結合のみ

- $1s+2p$ の重なり $> 1s+3p$ の重なり (3pのほうか diffuse)
- (上記を受けて) C, N, O, F との結合が Si, P, S, Cl との結合より強い
- 2p軌道の電子は、核電荷の差により $F > O > N > C$ の順に強く核に引きつけられている。共有結合を形成した場合も同様に s 電子が核に引きつけられる。すると、電子の偏りが δ^- , δ^+ のように部分電荷を生み出す。この部分電荷間のクーロン力は 正の相関があるので、このクーロン項の電荷の大きさ $\leftrightarrow$ 電子の偏り具合と電荷の大きさを反映して結合の強さは $HF > HO > HN > HC$ の順になる。



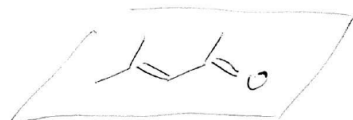
横が3個と



このように感じ

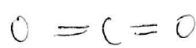


Meの向き以外は
すべて同一平面上

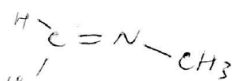


Meの向き以外はすべて
同一平面上

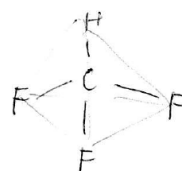
10.



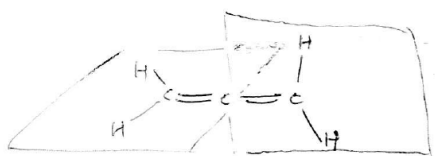
直線



Meの向き以外は
同一平面上



正四面体(これは)



中心の炭素に 90° ねじれ